

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 人文・社会教育学系 教授

氏 名 下里 俊行

研究期間 平成30年度～平成31年度

(令和元年度)

研究プロジェクトの名称	大学院教員養成課程における社会系教科専門性育成の在り方に関する実証的基礎研究
研究プロジェクトの概要	<p>本研究は、大学院での教員養成（再研修を含む）において、教科教育実践者としての専門性育成の在り方を、本学大学院教育の社会系教育分野の実績から実証的に検討することを目的とした。</p> <p>研究1年目の平成30年度に、本学大学院の修了者自身が、大学院での学修成果・意義を、現在どのように評価しているかの情報・資料収集・検討のために、全国で活躍する修了生6人を招聘したシンポジウムを開催した。</p> <p>研究2年目の平成31年度は、基本的に研究分担者による個別研究を実施し、2019年8月28日に研究打ち合わせを行い、研究の方向性について意見交換を行い、その後、研究報告書の執筆・編集をおこなった。</p>
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>本研究の結果、本大学院教員養成課程における社会系教科専門性育成のこれまでの在り方が理論的・実践的に有効であることが実証され、今後の課題が明らかにされた。個別の成果は以下の研究報告書所収論文の通りである。</p> <p>下里俊行「大学院教員養成課程における社会系教科の専門性育成の方向性——価値の次元の扱いを中心に——」；塚田穂高「教育大学における「宗教」教育の内容と実践——上越教育大学で「宗教」をどう教えるか——」；志村喬「パワフル・ナレッジ(powerful knowledge)論の生成と展開に関する教科教育学的覚書——地理教育からの書誌学的アプローチ——」；蜂須賀洋一「裁判の事例から学ぶ学校安全に関する教師の専門性」；菅原至「教職大学院の学修と教育実践の間——A教員の教育観の変容に着目して——」；山内清央・薄羽明梨・近藤克彦「特集『社会科教科内容構成学の探求』の意味と今後の教員養成——特集にあたって」；富永浩文「『社会科教科内容構成学の探求』について——小学校社会科の改善・充実と求められる教員の資質の視点から——」；仙田健一「学び続ける教員としての資質・能力——『社会科教科内容構成学の探求』と関わって——」；任田富美「『社会科教科内容構成学の探求』について——時間系社会科の視点から——」；松村謙一「子どもと教師が主体的になるための社会科教科内容構成学の構築に向けて——教育現場が求める教師の姿——」</p>
研究成果の発表状況	『「大学院教員養成課程における社会系教科専門性育成の在り方に関する実証的基礎研究」報告書』全55頁（2020年3月、【学内限り・内部資料】）並びに各自の学会発表・研究論文（投稿中を含む）
学校現場や授業への研究成果の還元について	本研究の成果は、今後、教員免許更新講習での講習内容の改善、大学院での学校実習での発展的な研究を通じて学校現場や授業実践に還元されることが期待される。